

【市長コメント】

《冒頭コメント1. 台風、豪雨被害への義援金について》

台風19号をはじめとして先週も豪雨がありました。たくさんの方が被災をされ、お亡くなりになられた方も多数に上りました。心からお見舞いとお悔やみを申し上げたいと思います。また、被災地の一日も早い復興をお祈りしたいと思います。

市では、8月の豪雨、台風19号・15号の義援金を受け付けています。第2庁舎2階の福祉保健課と各支所、東部保健福祉センター、西部保健福祉センターの9カ所に義援金箱を設置していますので、市民の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

それから、ホームページには、直接振り込みができる口座を記載しています。日本赤十字社を通じて被災地にお届けすることになっていますので、市民の皆様の温かいご支援をよろしく申し上げます。

《冒頭コメント2. ラグビーワールドカップ2019™関連イベント》

ラグビーワールドカップと、期間中に開催したさまざまなイベントについてです。

ラグビーワールドカップは、11月1日の3位決定戦、2日の決勝戦と残すところ2試合のみになっています。大分では5試合開催されました。一言でいうと、大成功だったのではないかと考えています。期間中は500人の市民ボランティアの方にまちなかの案内などに取り組んでいただきました。また、清掃活動ということで、商店街の皆様やいろいろな方々が一緒になって、まちをきれいにしたり、シティドレッシングをしたりしました。そして何より、外国や国内の各地からたくさんの方が大分にお越しになりましたが、そのような方と一緒にラグビーを楽しんでいただき、盛り上げていただきました。このイベントを通じて、大分の魅力も世界に発信することができたのではないかと思います。今後、この経験をどう生かしていくのかが課題ではないかと思います。報道機関の皆様も大変お忙しかったと思いますが、報道を通じて、この連日の盛り上がりを発信していただきまして、まことにありがとうございました。

「Enjoy Oita!! Welcome Fair」は、祝祭の広場と大分城址公園を中心に行い、10月23日までに祝祭の広場には31万6,000人の方々に来ていただきました。

パブリックビューイングの来場者数で一番多かったのは、日本対南アフリカ戦でした。惜しくも日本が負けましたが、この試合のとき、私もいましたが、後ろのほうは立錐の余地もないぐらい人がいました。日本対スコットランド戦には約3,500人、日本対南アフリカ戦には約5,000人が集まりました。祝祭の広場は、「集い」「憩い」「祝い」というテーマですが、ここに集って、スコットランド戦では日本の勝利をみんなで祝い、負けたときはみんなで残念と言っていました。広い場所では子どもとお父さんがラグビーボールでお互いにパスをしながら遊んでいました。本来の憩いと違いますけれども、そういう憩いの場も見られたと感じています。お酒や焼き鳥などいろんなものを楽しみながらという意味では憩いの機能もあったかもしれません。

そして、3位決定戦と決勝戦も、またパブリックビューイングを行いますので、引き続き、祝祭の広場で観戦、応援をしていただければと思います。

そして、「おおいた食と暮らしの祭典」は、毎年10月に行い、今年で4回目になりますが、来場者が昨年よりも約3万人多かったです。

それから、「おおいたマルシェ」は来場者数が昨年より少し減りましたが、これはほかのイベントに分散してしまったところもあったかなと思います。「宗麟公まつり」は、来場者数が約1万5,000人増えました。

「スポーツ・オブ・ハート」は、ちょうど10月11日、12日、13日に開催し、来場者は約91,000人でした。渋谷でも開催していますが、渋谷より大分のほうの参加人数がはるかに多かったと聞いています。

「中央通り歩行者天国」は、昨年の来場者数より5,000人減りましたが、これは祝祭の広場をはじめ、ほかのところに分散したことが原因かと思います。

「おおいた夢色音楽祭」も、来場者数が少し増えました。

それから、大分城址公園では「府内城フェスティバル」や「植木造園展」などを行いました。「府内城フェスティバル」は、昨年是一日のみ開催し、来場者は2,000人でしたが、今年は2日間で7,700人ほど来ていただいて、外国の方もたくさんお見えになっていました。フランスの大使がフランスの試合の応援に来ていて、「見たい」と言うことで、連れていくと、すごく喜んでいました。日本庭園やコイ、府内戦紙も展示していたので、それも喜んで見ていただきました。また、大分市職員互助会の皆さんに府内戦紙の踊りを披露してもらいました。

従来と比べて、それぞれのイベントにもぎわったと思います。ちなみに、すべてのイベントの来場者数を足すと80万5,649人になります。「大分七夕まつり」の来場者数が3日間で約40万人ですので、その2倍ぐらいです。これを比べるのも、期間もまちまちで、イベントの規模もいろいろですけど、今回祝祭の広場の来場者数は人感センサーを使ってかなり精密に数えていますし、しっかりした数字です。市が行ったイベントだけでも、それぐらいの方々がお越しになっています。

それから、祝祭の広場は約3,000人のキャパシティですが、パブリックビューイングの一番多い時には約5,000人が集まりました。ブースには各国の食べ物やビールなどのお店が出店していましたが、期間中に6,351万円の売り上げがあったそうです。ビールは500ミリリットル換算で2万4,000杯売れたということです。キャッシュレス決済も準備し、利用率は16%でした。

そして、J:COMホルトホール大分の発信スペースは、本市が各市町村と連携しながら、2万人近くの方にお越しいただきました。インフォメーションセンターは2カ所、府内中央口広場とギャラリー竹町ドーム広場に設置しましたが、ここにもたくさんの方にお越しいただきました。外国の方がたくさん来て、「シャトルバスの乗り場はどう行けばいいんですか」など、大事なことをここで聞いていたので、非常に機能したと思っています。

市民ボランティアは延べ約1万6,000人弱の来訪者などの対応をしていただきました。

そして、May J.さんの「NO SIDE」にのせた「大分ラグビーメモリアル」という大分のラグビーの歴史を振り返る動画は、10月29日現在で約1万5,000回再生されています。フィジーとウルグアイの国歌は、大分の景色にのせて芸短の学生さんに歌っていただきました。

それから、ツイッターにたくさんアクセスをしていただいている、大分市公式のツイッター、フェイスブック、インスタグラムでは合わせて126件投稿していますが、合計約89万件の閲覧がありました。

そして、10月5日の日本対サモア戦のパブリックビューイングの様子を短い動画で紹介した投稿は、20万のアクセスがありました。多くの方が祝祭の広場に集まって、みんな応援している姿を、世界中の方に見ていただいたということかと思います。

ラグビーワールドカップ組織委員会の公式ツイッターから、しばしばこのツイッターにコメントが入っていました。大体入っているものは、「大変素晴らしい動画をアップしてくれてありがとう。これをぜひ公式ツイッターで紹介したいのですが、いいですか」というパーミッションの要請がありましたので、「ぜひどんどん使ってください」という返事

をしています。

ラグビーワールドカップにあわせて、ほかのイベントにも大きな集客や相乗効果があったと思います。それから、日本の文化の発信についても、大分城址公園でかご体験やヤマ揃え、錦鯉展示、植木造園展、書道体験などを外国の方にも楽しんでいただきました。祝祭の広場では「鐵心太鼓」や津軽三味線も聞いていただきました。フランスの大使も非常に熱心に聞いていました。このように、日本文化の発信、大分文化の発信もできたかなと思います。

インフォメーションセンターでは、「どっちに行ったらいいですか」という問い合わせが多かったようです。イギリスやフランスの方が多く、自動翻訳機も役に立ちました。シャトルバスやパブリックビューイング会場、グッズ販売、空港行きのバスなどの案内が多かったそうです。

そして、フランス大使からは手紙をいただきました。10月20日に市内を案内し、フランス戦を応援されました。

それから、来訪者からは「親切だ」とか「きれいだ」というコメントもたくさんいただきました。市の職員と一緒にボランティアの皆さんもごみ拾いをやってくれたのも非常によかったです。

ちなみに、この間に、キャンバスで自動運転バスの実験を行いました。10月6日から14日まで、キャンバスルートということで、大分市美術館と県立美術館を中心に回るコースを100円で走りました。9日間で延べ577人が乗車しました。自動運転ではないときは平均で10人弱ぐらいですが、1便当たり21人に乗っていただきました。集客があったこともあわせて、この機会に自動運転で市と県の美術館に行ってみようという方も多かったのかなと思っています。

それから、配布している写真も簡単に紹介します。祝祭の広場の盛り上がる様子ですが、フリーで入れて、お酒も飲みながら試合観戦でき、屋台には日本や各国の食材も販売されていて非常ににぎわいました。

それから、ウルグアイの選手と王子中学校生徒との交流がありました。非常に和気あいあいと、国歌を歌ってもらったり、選手と中学生の腕相撲大会が始まったりして非常によかったです。

それから、ウルグアイの中学生が引率を入れて20名来ました。先ほどの交流事業は選手の分でしたが、子どもたちの交流もありました。滝尾中学校に行ったのと、由布市に行くとオーストラリアとウルグアイと大分の中学生でラグビーの試合をするという交流もありました。

あと、ウルグアイから、大使やラグビー協会の人たち、在ウルグアイ日本大使の眞銅さんも一緒に来ました。市美術館の「いろのわ」というレストランで交流をしました。

それから、フィジーからは大使ご夫妻が来られ、広瀬知事にも来ていただいて、レセプションを行いました。

フィジーからは大学生の青年訪問団が20名来まして、大分大学の医学部の学生さんと書道交流など、いろいろな交流ができました。

そして、フランスは、準々決勝でちょっと早く大分に来ていました。選手は試合のことに集中していて、子どもたちとの交流の機会はありませんでしたが、レセプションにはラグビー協会の皆さんと大分日仏協会の会長にも出席していただきました。それから、先ほど言いました大使は、試合当日の午前中に来まして、祝祭の広場や大分城址公園などを案内して、フランスの試合を応援して、あまり長くおられないで戻られましたが、そういう交流がありました。

期間中に開催したいろいろなイベントの様子として、植木造園展は、夜のライトアップ

により、府内城仮想天守イルミネーションと一緒に非常にきれいでした。午後11時まで電気をつけていましたが、私も10時30分頃に行くと、その時間はもうほとんど人がいなくて、何となく幽玄の世界といいますか、この世ではないような雰囲気を出していました。

それから、「宗麟公まつり」を大分駅府内中央口広場で行いました。「スポーツ・オブ・ハート」には歌手のMay J.さんも来てくれました。今年は「NO SIDE」の歌をはじめ、3曲歌ってくれました。関係者の方が「8月ごろに出張で大分に来たら、商店街やいろんなところで『NO SIDE』の曲が流れているのを聞きました。大変うれしかったです」という話をしていました。8月の終わりごろから商店街の皆さんに流してもらって、9月下旬くらいからはビデオができて、これも商店街のディスプレイで流してもらったりしました。May J.さんは歌詞の内容を一つ一つそしゃくして、これはこういう歌だというのを自分の中でつくって、その情感を入れて英語で歌ってくれました。祝祭の広場で「スポーツ・オブ・ハート」の最終日、13日に歌ってもらったときは満席でした。13日のパブリックビューイングはスコットランド戦だったということもあり、スコットランド戦を待つ人たちも後ろにいっぱいいましたけど、あのステージで歌ってもらって非常によかったです。

それから、何よりボランティアの皆さんが頑張ってくれて、市民力がすばらしいと改めて思いました。実は23日の準々決勝が終わったらパブリックビューイングを予定していませんでした。例えばスコットランド戦などはイベントと重なっていたので予定していませんでしたが、「やれるんだったらパブリックビューイングもやりましょう」とお願いをしたところ、「それだったらボランティアもやりますよ」ということでやっていただきました。まだあと2試合ありますし、他のイベントも調整していただいて、パブリックビューイングができるようにいろいろな方に協力いただきました。特にボランティアの皆さんは、延びてもいいので自分たちもやりたいとやっていただいています。ほんとうにありがたいことだと思っています。

《1. 「財政収支の中期見通し」（令和元年度～5年度）について》

令和元年度から令和5年度までの財政収支の中期見通しについてです。これは、毎年この時期に説明していますが、5年間の財政がどうなるかという状況について見通しを立てて、持続的で安定的な財政運営に努めるための検討をしていますので、これを紹介したいと思います。

市税は例えば元年度の見込み額をもとに税制改正や固定資産税の評価等を考慮して試算した等のそれぞれの根拠を書いています。

元年度の歳入が1,858億円、歳出が1,858億円です。ここで均衡しまして、その後、それぞれの項目がどう動いていくかを試算しまして、5年後の時点でどれぐらい収支不足が生じるかということ进行分析しています。

歳入歳出に分かれていますけど、歳入のほうからご説明します。

市税は、元年度797億円ですが、2年度には807億円に上がります。これは、個人の市民税等が総務省等の前提の置き方により、例えば7億円ぐらい上がるということで807億円になります。それから、3年度になると少し下がりますが、ここで固定資産税の評価替えがあります。毎回、固定資産税の評価替えがあると、そのときに下がりますが、2億円ぐらい減になるということになっています。押しなべて、800億円の半ばぐらいで横ばいになるようなイメージです。

次の地方交付税は、元年度は98億円ですが、2年度は89億円に下がります。これは、消費税とかが上がると、豊かになったと判断されて、その分地方交付税が減らされる

というメカニズムにそもそもなっております。

地方交付税といいますのは、総務省が担当ですけど、国から渡されるお金が、令和2年度は市税等の収入が増えるので減らしますということで、89億に減ります。そして、そういうシステムに基づいて、95億円、90億円、86億円となっています。

ちなみに、その他のところが、令和3年度に301億円から291億円に減るものから、交付税が89億円から95億円に上がっています。ここを先にご説明しますと、消費税分がその他の289億円から301億円に上がりますけど、これもテクニカルな問題で、令和2年度は13カ月分を計上するということになっていますので、301億円になります。そして、令和3年度は12カ月分ということで、平年度に戻るとということで、291億円です。

そして、国県支出金は501億円から535億円に増えます。令和2年度は、佐野の廃棄物処理場の整備や、保育園の中でも設備を整備しないといけない分などがありますので、そういう分があって増えます。そして、その後もいろんなニーズがありますので、それに基づいて、国と県の支出金が、これに使うお金ですということで入ってくる分がありますので、大体530億円の半ばぐらいで横ばいになるという数字になっています。

市債は173億円が169億円になるということで、2年度に減りますが、これは公債の発行や元金の利払いが減るので169億円に減り、3年度もまた少し減りますが、4年度になると、金池小学校の改修のために、また市債を発行します。それで189億円に増えます。

市債のうちの臨時財政対策債の56億円が68億円に増えます。本来、地方交付税で交付すべきところを、国のお金が足りないので、そのかわりに臨時財政対策債を市が発行して資金を調達してもいいですというのがあります、これが2年度は68億円に増えます。

歳入は1,858億円から1,900億円前後ぐらいのところまで推移します。

歳出は義務的経費、投資的経費、その他に分かれています。

まず、人件費、扶助費、社会保障関係費、公債費を義務的経費といいます。例えば道路や廃棄物処理施設、学校などの施設をつくるのは投資的経費ですが、義務的経費を内訳で見ると、まず人件費287億円から299億円に増えて、あとは300億円ぐらいで推移する予定になっています。この主な理由は、今、パートの職員の方々がたくさん市役所で働いていただいています、こういう方々を会計年度任用職員にかえて、例えばボーナスが出るようにするとか、交通費や保険の整備が行われます。そのための費用が12億円ほど増えます。その制度に移行するというので、303億円ぐらいの数字で推移するようになっています。

それから、次が扶助費ですが、増える額でいうと、これが一番大きいです。どこが増えるかというと、待機児童対応のための私立保育所の運営費が増えていきます。人数でいうと、今は約1,100人ですが、2年度は364名増やします。さらに、3年度は保育所の定員の数を442人増やします。これにより、待機児童をゼロにしたいということで、予定しています。10月から幼保無償化になり、3歳以上と、収入の低い方は、保育所とか幼稚園の費用が無料になります。それなら預けて働こうというニーズも増えてくると思いますので、待機児童がゼロになるように取り組んでいますが、どうなるかは様子を見ないとわかりません。扶助費557億円が580億円、599億円と増えていき、4年度、5年度には横ばい程度で推移をします。

公債費のほうは、公債を発行しなくても対応できるような形で措置ができそうだということで、192億、190億、190億、184億、176億円と減っていくようになっています。

そして、投資的経費は2年度と4年度に増えます。2年度は、佐野の廃棄物処理場の整

備をして、さらに延長しないといけないということで投資を行います。そのための費用で235億円から242億円に増えます。そして、金池小学校の改修をPFIで行うように準備を進めていますが、実際に工事に入るのが4年度からですので経費が増えます。あわせて、佐野清掃センターと福宗環境センターにかわり、6市からごみを受け入れる新環境センター関係の事業が4年度から費用を伴うということで、増えていくという見通しになっています。

その他の部分も2年度に増えますが、これは後期高齢者の医療費や介護保険です。国民健康保険等の保険事業と繰り入れのところを中心として、予算が必要になってくるので、2年度は上がります。その後も、高齢化等に伴い、着実に増えていくということが見込まれます。

歳出は、このように1,858億円が1,909億に増えていきます。その結果として、収支の差が特に大きいのが4年度で、歳入が1,909億円で、歳出が1,927億円となります。収支差がマイナス2、マイナス10、マイナス18となり、累積していくと、5年度にはマイナス31億円という計算になります。このお金をどうやってファイナンスするかということで、基金で3基金、財政調整基金、減債基金、市有財産整備基金がありますが、現在の203億円が5年度は170億円まで減ります。基金は200億円ぐらいないといけないだろうと言われていていますから、203億円が170億円に減るとするのは、かなり減っていくというふうに見込まれます。

ただ、主要3基金残高は1年たつと、上方修正するのがトレンドになっています。なぜ上方修正するかというと、大概是節約等により歳出が思ったほど伸びないということも起こりますし、もう一つはいろんな事業がなかなか進捗しなくて先に延びていくということもあるかと思えます。

こういうトレンドがあるので、これまでのトレンドでいくと、185億円くらいまで戻るかなと見られますが、今の時点はこのような見通しになります。

そして、市債の残高1,695億円が、5年度は1,696億円となっています。投資的経費が4年度から増えるのでちょっと上がっていきませんが、このくらいで維持できています。

そして、公債費の比率は事業が増えていくので5.1から4.6に減っていくということです。これ自体はそんなに心配する必要はないということかと思えます。

經常収支比率が、予算に占める義務的経費の割合で、通常は80%を超えると硬直化していると言われていています。大分市はずっと93%ぐらいで推移しており、上昇してはいませんが、80%よりかなり高いです。ただ、80%より低いところは、日本の中で豊田市だけです。そういう意味では、80%という数字が結構厳しい数字であるのは確かです。中核市の平均で92.6%ですから、やはり中核市の平均と比べてもちょっと硬直的だと言えるかと思っています。

中期的に見ると、市税の収入等々をこれからどうするかというところもありますが、健全性が損なわれているという状況ではないと思います。ただ、扶助費をはじめとした社会保障関係費が増えていっているということで、義務的経費が非常に高いです。

それから、老朽化が進んでいる施設も今後更新していかないとはいけませんので、やはり財政運営は決して楽観視できるということではなく、これからはしっかり行政改革を進めて、健全化への取り組みをしっかりとやっていくことが必要だと思えます。

一方で、市が発展していくための投資や企業誘致、中小企業や農業の発展、そして何より防災・減災対策です。先日も国土交通省に行って、「しっかり治山治水、特に大野川の治水をお願いします」と言ってきました。減災・防災対策や課題となっている子育て支援に対する取り組みが必要ですので、そういう点についてはしっかり取り組んでいくという

ことかと思えます。一言で言うと、優先順位をしっかりとつけて、不要なところはしっかり整理をして、行革をして、大事なところに投資をしていくことが必要ではないかと考えています。

《 2. 道の駅「のつはる」がオープンします 》

大分川ダムが完成すると「ななせダム」「のつはる湖」となりますが、この完成にあわせて、道の駅「のつはる」が11月30日にオープンします。

ダムの完成式は11月24日に行われますが、これは国土交通省の直轄ダムですので、国土交通省が主体となって完成式を行い、その1週間後に道の駅「のつはる」の開駅を行う予定にしています。

面積は5,942平米で、建物は480平米の平屋造りです。そして、野津原に後藤家住宅という国の指定重要文化財がありますので、それをモチーフにしたつくりになっています。

道の反対側から湖が一望できるようになっていて、レストランと農産物の直売所があります。野津原で農業塾等も開いておりますが、つくっていただいたさまざまな農産物の直売も行います。

それから、レストランでは、のつはるパンケーキや冠地鶏の工場が野津原のすぐ近くにありますので、冠地鶏の食べ物などを提供する予定にしています。

運営主体は夢あふれる野津原振興会です。これは野津原の地域の若手の方々、経済人の方たちを中心としてつくっていただいた一般社団法人で、ここが運営をする予定にしています。

オープニング記念としまして、「どこでもコンサート」を行い、サクソフォン奏者の山崎さんと江藤さんに演奏していただきます。

ちなみに、コア山という山があり、ダムをつくる時に土を削ったところです。そこに多目的広場ができる予定になっています。今は工事中ですが、来年3月に完成します。例えば夏は非常に涼しいのでコンサートやいろいろな農業イベントなどをここで開催していただく予定にしています。

《 3. 「みんなで描く、未来のまちづくり～地域まちづくりビジョンシンポジウム～」を開催します 》

「地域まちづくりビジョン」を昨年7月に市内の13地域につくっていただき、今、それにもとづくさまざまな取り組みを進めています。そして、「ふれあい市長室」、「まちづくりビジョンフォローアップ会議」を13の地域で行うことにしています。まちづくりビジョンをどういうふうに行っているかとか、それから、その後に出てきたいろいろな課題にどう対応するか等の議論を、それぞれ順番に回りながら行う予定にしています。

あわせて、このビジョンについて、どうまちづくりを行うかについて、集まっていたいただき、シンポジウムと講演会を11月23日にコンパルホールで開催します。講演は岡野涼子さんという方で、今は一般社団法人NINAU代表理事をされています。この方は、今、日田を中心として、まちづくり、小中高連動のキャリア教育等を行っています。この方に、次の地域をつくる担い手たち、若い人たちの話を中心にお話していただきます。その後、各13地域の代表の方々に登壇していただいて、そして私も入って、どうやってこれからまちづくりをしていくかについてのパネルディスカッションをする予定にしています。

大分市内はそれぞれの地域でさまざまな特徴を持っています。歴史も江戸時代は小藩分立になっていて、例えば、鶴崎とか野津原は肥後藩で、そのほかにも延岡藩のところと

か、いろいろな地域の特徴がありますので、地域の歴史、文化、特徴とそれぞれ誇りとするとところを生かしながら、課題を整理して取り組んでいこうということで議論する予定にしています。

まちづくりビジョンは全部で2,097人の方々が参加してつくりました。それぞれの地域の委員は10人ぐらいだったでしょうか。おもしろいと思ったのは、PTA会長の30代の若い人やが、老人クラブの会長である高齢者の方などが一緒になって、まちのあり方を議論してつくったビジョンを大事にして、これからどういうふうに関わりをしていくかについて議論していただいたということです。また、それについてのディスカッションをしていただきます。

《4. 空き家問題をテーマとした演劇公演『サヨナラ、我が家。』とパネルディスカッションを開催します》

空き家問題も大変大きな問題であり、空家等対策協議会をつくって議論しています。

空き家については二つ問題があり、一つは、住む人がいなくなって、オーナーはどこか違うところに住んでいるが、危ないので壊さないといけない。これは空家等対策協議会で議論して、ある一定のものについては外部委員会に意見を聞いた上で壊せるという対応をします。もう一つは、ストックとしてはまだ使えるのに使えない状況になっているところがあります。それをしっかり生かせるようにしていこうということで、さまざまな取り組みをしています。

空き家は大分市内だけでも3,138件ありますし、全国では13.6%が空き家で、これをいかに活用するかも大事です。

そして今回は、空き家についての関心を市民の皆さんに持っていただくということで、一つは、空き家に関する演劇を見ていただきます。そしてその後に、パネルディスカッションをしていただくものです。自分が今まで育ててきた家が空き家になって、それぞれの家族の心境を演劇にした「サヨナラ、我が家。」という演劇を、劇団水中花にさせていただきます。そして、「空き家にしないために、今、家族が考えなければならないこと」というディスカッションを、劇団水中花の代表と空き家のサポーターのNPOの方、それから土木建築部長に入ってもらい、検討する予定としています。

これも、これからのまちづくりという意味で大変重要な課題だと思いますので、ぜひたくさんの方に来ていただければと思っています。

【質疑応答】

《冒頭コメント2. ラグビーワールドカップ2019™関連イベント》

記者 祝祭の広場には最大で5,000人、延べ30万人が訪れたということで、ラグビーワールドカップのために建設したところもあると思いますが、これだけの人が来場したということへの市長の受けとめと、今後の活用方法について教えてください。

市長 ラグビーのために建設したわけではないのですが、やはり人が集って、祝って、憩う場所として、この祝祭の広場は非常に市民が集まりやすい場所だ、魅力のある場所だと私も再認識しました。もともと祝祭の広場をつくる時、中心市街地の中でも、へそのような場所という話をしましたが、集まりやすい場所だと改めて感じた次第です。市民の皆様から活用していただいて、いろんな人たちが協力してくれた、努力の成果でもあると思うので、非常にありがたかったと思います。

これからどう活用していくかについては既に幾つか予定が入っていますが、イベン

トにもどんどん活用していただければと思います。
イベント以外には、あそこに座って本を読んでいる人とかを結構見かけたりします
ので、ベンチシティという考え方もあります。なかなか中心市街地の真ん中に座っ
て憩うなど、そういう場所がないですねという議論はよくされますので、そういう
使い方ですね。駅から降りて、少し歩いて、トイレもありますし、少し時間を使う
ような場所というような使い方もあると思います。
これから、使われ方を見ながら、どう活用していくのかをさらに検討していきたい
と思います。今回のラグビーワールドカップでは、この祝祭の広場は期待されてい
た役割を果たしてくれたと思います。

記者 ネーミングライツは再募集するのでしょうか。

市長 また状況を見ながら、いずれ募集することになると思います。

記者 それは今回盛り上がったというか、手応えがあったのかということですか。

市長 もともと募集する予定にしていたのですが、こういう状況も見て、評価していただ
いて、応募していただける方がいるとありがたいなと思います。

記者 県知事はラグビーの精神を教育に生かしていきたいと話されていましたが、ラグビ
ーワールドカップでの経験を、教育や交通などに生かしていくところが何かあれば
教えてください。

市長 そうですね、私も非常によかったと思いますが、中でいろいろ課題もあるはずなの
で、全体としてはあと2試合が残っていますが、終わったところでしっかり整理し
て、課題を抽出して、どういうことに取り組まなければならないのかを1個ずつし
っかり取り組んで、せっかくの大規模イベントの経験を最大限生かしていくことが
大事だと思います。

それから、フィジーとの関係は、東京オリンピックの7人制ラグビーの公式キャン
プを大分で行うという協定を締結しました。これもよかったと思います。ほかにも
ウルグアイやフランスも大分市でキャンプを行いましたので、いろいろな関係も今
後できてくるといいなと思います。これは、課題というよりは、どちらかという
レガシーをどう生かしていくかだと思います。

記者 スポーツ・オブ・ハートは昨年に比べて来場者も増えていますが、盛り上がりの受
けとめはいかがですか。

市長 やはりスポーツ・オブ・ハートは、障がいのある人もない人も一緒になって、スポ
ーツ、ファッション、音楽、いろいろなものを楽しもうという、大分のスピリッツ
に非常にマッチした事業だと思います。高橋尚子さんは3回続けて来てくれていま
すし、そういう事業ですから、私どもとしては大事にしたいと思います。議会の指
摘については、私としては一つ一つしっかり丁寧に説明していかないといけないと
思いますので、これからまた指摘されたことを、一つ一つしっかり整理して説明し
ていきたいと思います。

記者 来年度以降はどうですか、考え方として。

市長 議会も、スポーツ・オブ・ハートの事業自身を否定して、やめろと言っているわけ
ではないので、よく相談しながら、私たちとしてはやはり続けていきたいと思っ
ています。

記者 開催する意義は間違いなくあるということでしょうか。

市長 そこ自身は議会も否定しているわけではないので。ただ、予算の支出の仕方がこう
いう形でいいのかというご指摘ですから、調整のしようがあると思います。

記者 収益を得る目的で行っているイベントではないので、公的な手助けが必要なイベン
トではあると思いますが。

市長 そうですね、市の税金で補助しているよりもはるかに大きい金額を、民間の方からも寄附をいただいて行っている事業でもあります。そういう意味では効果が何倍も大きくなっていく事業の形にはなっていると思います。ただ、ご指摘いただいている点について、1個ずつきちんとこちらでも説明する責任があり、予算にする場合は当然議会の承認が要りますので、そういう努力をしっかりとやっていきたいと思えます。

記者 来年パラリンピックもありますし、そこに対する盛り上がりというのは感じていますか。

市長 はい。木谷さんのボッチャ教室や廣道さんによる車椅子の体験などいろいろと、スポーツ・オブ・ハートの関係で、学校で体験を行っていただきました。ほかにも、例えばノーマライズ駅伝など、非常に価値のある、盛り上がりにもつながっていく事業だと思います。

《1. 「財政収支の中期見通し」（令和元年度～5年度）について》

記者 扶助費が増えていくというのは全国どこでもそうなると思いますが、これはどういうふうに変革し、取り組んでいくのでしょうか。

市長 投資的経費は、毎年200億円ぐらいの投資をしていこうと枠を一応決めて、その中で順位を決めながら行っています。厳しくなったら、投資的経費を削るということも思いますが、そこはできる限りしたくありません。やはり地域が発展していくために投資的経費は必要だと思います。そうすると、義務的経費のところはどういうふうになるか。

人件費も、今までさまざま形で行革をしてきて、例えばラスパイレス指数も大分市は以前100を超えていましたが、今はちょうど100です。そういうところも改革はしてきていますが、逆に人件費総額で見ると、かなり人が減ってきているところもありますし、災害対応を考えると、現場の力がこれ以上落ちると危ないと考えます。現業の職員の採用もまた始めたいと思っています。そういう意味ではなかなかかなり厳しい状況になってはいますが、その中で優先順位をつけながら大事なところに人を配置していく取り組みを、機構改革とあわせてやっていかないとはいけません。

扶助費のところは、国全体でいうと、例えば在宅医療・介護という形、あるいは医療費の抑制などが関係してくると思います。国の制度設計に基づいて、市が実際に担っているところが多いです。ですから、国との関係でいうと、例えば児童相談所の議論もそうですが、設置をすると専門の職員や施設も要るし費用がかかってくるから、そういうところに対する支援をあわせてしっかりやらせよう。これは市長会を通すなど、また個別に要請をしっかりしていくことになろうかと思えます。

決め手はなかなかないですが、一つ一つ優先順位をしっかりとつけて、行政改革は外部委員会などにもかけていますので意見をしっかりといただきながら、不要になったところをできるだけ減らして、新しいところに変えていくことしかないと思えます。

《2. 道の駅「のつはる」がオープンします》

記者 今回新たにつくる設備、施設として、石油ガス災害バルクの表記があります。災害ではどういった、活用をされるのでしょうか。

市長 ここは避難所ではありませんが、何かあったときに、ここで暖をとるなどの役割が必要ですので、石油ガス災害バルクも準備をしています。

記者 道の駅ができることで期待されていることやこんなふうに活用してほしいというところはありますか。

市長 これは道の駅も含めて、のつはる湖、ななせダム自体が、ぜひ訪れてみたいという、野津原に人を呼ぶ拠点になってもらうことを期待しています。野津原は今、人口が4,000人ぐらいで、大分市内の中では過疎が進んでいます。中心部から車を使って約40分で行けますし、夏は涼しいので訪れて憩う場所やサイクリングコースにもなります。そういうアクティビティにも向いていますし、湖面利用も今検討しています。カヌーやヨットなどをのつはる湖に浮かべることもできますので、そういういろいろなアクティビティをすることによって、市民の皆さんの憩いの場であるとともに、たくさんの方がここを訪れて野津原が活性化していくという拠点がこの道の駅になるのではないかと考えています。

以上で記者会見を終了します。

(※出席者の発言内容については、言い違いや重複した言葉づかいなどを整理して掲載しています。)